

中小企業景況調査報告書

2025年1～3月期実績

2025年4～6月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。

調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

①調査対象時期：2025年1～3月期の実績及び2025年4～6月期見通し

②調査期間：2025年2月17日～3月4日 ※調査時点は2025年3月1日

(2) 調査方法

①商工会の経営指導員等による訪問面接調査

②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

①人口～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別
枝幸町、安平町、鹿追町、本別町、弟子屈町

②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町

③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	48	42	87.5%	小売業	87	83	95.4%
建設業	51	48	94.1%	サービス業	114	104	91.2%
				合計	300	277	92.3%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

(5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。

例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は50-20=(+)30となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況(前年同期比、前期比の推移) ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前 期 比					
	今期	来期見込	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	今期	来期見込
製造業	▲ 38.1	▲ 35.7	▲ 11.8	▲ 21.3	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.2
建設業	▲ 20.8	▲ 22.9	▲ 10.6	▲ 16.0	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 25.0
小売業	▲ 32.6	▲ 33.8	▲ 23.2	▲ 34.2	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 26.5
サービス業	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 31.5	▲ 32.7	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 27.5

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 4-6	R6. 7-9	R6. 10-12	今期	来期見込
業況	好 転	2.4	0.0	8.7	8.9	4.5	0.0	7.1
	不 変	57.1	64.3	69.6	77.8	63.7	59.5	59.6
	悪 化	40.5	35.7	21.7	13.3	31.8	40.5	33.3
	D・I	▲ 38.1	▲ 35.7	▲ 13.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.2
売上(加工)額	増 加	16.7	9.5	32.6	28.9	13.6	7.1	
	不 変	38.1	54.8	37.0	51.1	45.5	35.8	
	減 少	45.2	35.7	30.4	20.0	40.9	57.1	
	D・I	▲ 28.5	▲ 26.2	2.2	8.9	▲ 27.3	▲ 50.0	
資金繰り	好 転	0.0	2.4	4.5	2.3	2.3	2.4	
	不 変	73.2	80.5	81.9	84.1	81.4	80.5	
	悪 化	26.8	17.1	13.6	13.6	16.3	17.1	
	D・I	▲ 26.8	▲ 14.7	▲ 9.1	▲ 11.3	▲ 14.0	▲ 14.7	
原材料仕入単価	上 昇	68.3	58.5					
	不 変	31.7	41.5					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	68.3	58.5					
採算(経常利益)	好 転	7.1	4.8					
	不 変	50.0	64.2					
	悪 化	42.9	31.0					
	D・I	▲ 35.8	▲ 26.2					

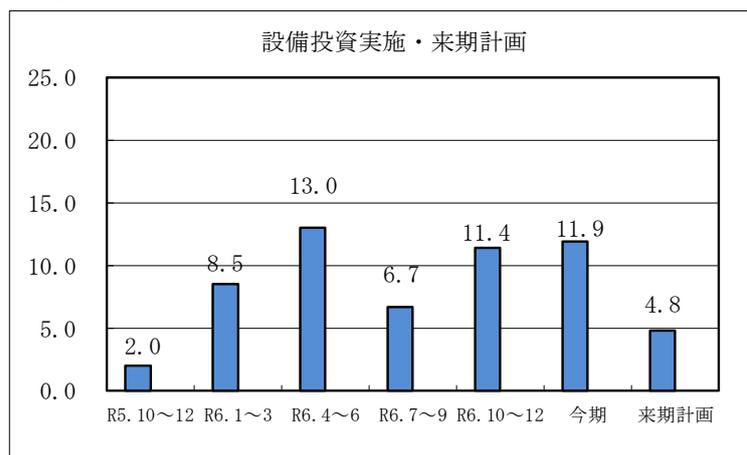
○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

回答42事業所の内、5事業所(11.9%)が実施。
 ●生産設備=3事業所、●車両・運搬具=2事業所、●工場建物=1事業所

【来期計画内容】

回答42事業所の内、来期に2事業所(4.76%)が計画。
 ●生産設備=2事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様1位だった「需要の停滞」と「原材料価格の上昇」で「需要の停滞」、「原材料価格の上昇」ともに、1.1ポイント上昇している。3位は同率で「製品ニーズの変化」と「生産設備の不足・老朽化」で「製品ニーズの変化」、「生産設備の不足・老朽化」ともに0.7ポイント増加している。5位は前回6位だった「原材料費・人件費以外の経費の増加」で0.4ポイント増加した。



建設業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前期比				
		今期	来期見込	R6. 4-6	R6. 7-9	R6. 10-12	今期	来期見込
業況	好転	2.1	0.0	4.1	13.7	2.0	0.0	2.1
	不変	75.0	77.1	77.5	68.7	80.4	75.0	70.8
	悪化	22.9	22.9	18.4	17.6	17.6	25.0	27.1
	D・I	▲ 20.8	▲ 22.9	▲ 14.3	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 25.0
完成工事 (請負工 事) 額	増加	20.8	6.3	22.4	33.3	15.7	8.3	
	不変	45.9	68.7	42.9	54.9	62.7	58.4	
	減少	33.3	25.0	34.7	11.8	21.6	33.3	
	D・I	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.3	21.5	▲ 5.9	▲ 25.0	
資金繰り	好転	0.0	2.1	8.3	8.0	2.0	0.0	
	不変	85.1	85.1	81.3	84.0	86.0	85.1	
	悪化	14.9	12.8	10.4	8.0	12.0	14.9	
	D・I	▲ 14.9	▲ 10.7	▲ 2.1	0.0	▲ 10.0	▲ 14.9	
材 料 仕入単価	上昇	66.0	57.4					
	不変	34.0	42.6					
	低下	0.0	0.0					
	D・I	66.0	57.4					
採算(経 常利益)	好転	6.3	0.0					
	不変	68.7	75.0					
	悪化	25.0	25.0					
	D・I	▲ 18.7	▲ 25.0					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

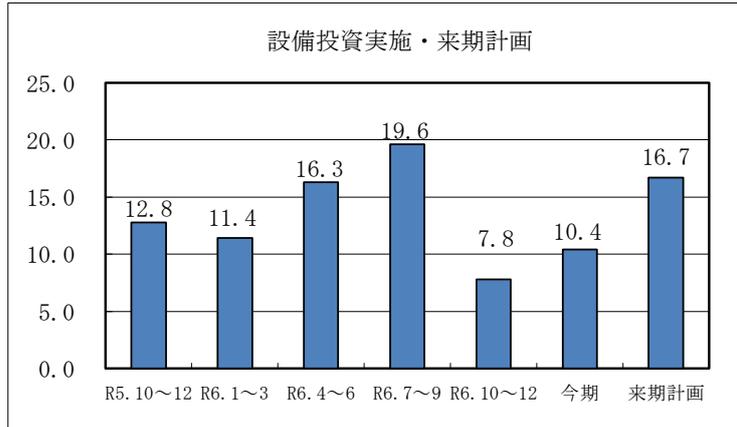
回答48事業所の内、5事業所(10.4%)が実施。

●建設機械、その他=各2事業所、●土地、車両運搬具=各1事業所

【来期計画内容】

回答48事業所の内、来期は8事業所(16.7%)が計画。

●建設機械=3事業所、●建物、車両・運搬具=各2事業所、●土地、OA機器、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様の「材料価格の上昇」で8.6ポイント減少した。2位は前回3位だった「民間需要の停滞」で、前回より0.7ポイント減少した。3位は前回2位だった「従業員の確保難」で3.2ポイント減少した。4位は同率で、「官公需要の停滞」と「熟練事業者の確保難」で、「官公需要の停滞」は、1.4ポイント減少しており、「熟練事業者の確保難」は、前回6位であり、5.5ポイント上昇した。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 4-6	R6. 7-9	R6. 10-12	今期	来期見込
業 況	好 転	6.0	4.8	7.3	6.0	2.3	3.6	8.4
	不 変	55.4	56.6	61.0	61.5	66.3	51.8	56.7
	悪 化	38.6	38.6	31.7	32.5	31.4	44.6	34.9
	D・I	▲ 32.6	▲ 33.8	▲ 24.4	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 26.5
売 上 額	増 加	14.5	13.3	21.7	25.9	17.4	16.9	
	不 変	51.8	53.0	49.4	43.5	50.0	37.3	
	減 少	33.7	33.7	28.9	30.6	32.6	45.8	
	D・I	▲ 19.2	▲ 20.4	▲ 7.2	▲ 4.7	▲ 15.2	▲ 28.9	
資 金 繰 り	好 転	1.2	2.4	7.4	7.2	1.2	3.7	
	不 変	68.3	69.6	67.9	73.5	80.9	65.8	
	悪 化	30.5	28.0	24.7	19.3	17.9	30.5	
	D・I	▲ 29.3	▲ 25.6	▲ 17.3	▲ 12.1	▲ 16.7	▲ 26.8	
商 品 仕 入 単 価	上 昇	67.5	59.0					
	不 変	30.1	33.8					
	低 下	2.4	7.2					
	D・I	65.1	51.8					
採 算 (経 常 利 益)	好 転	4.8	3.6					
	不 変	54.2	62.7					
	悪 化	41.0	33.7					
	D・I	▲ 36.2	▲ 30.1					

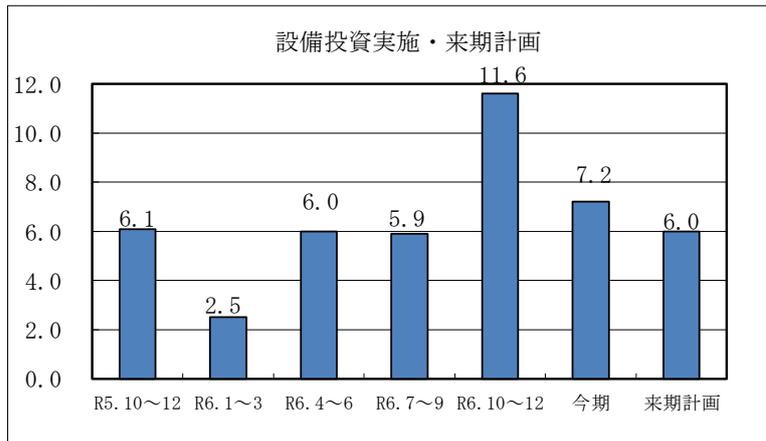
○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

回答83事業所の内6事業所(7.2%)が実施。
 ●車両・運搬具、OA機器=各2事業所、●販売設備、付帯施設=各1事業所

【来期計画内容】

回答83事業所の内、来期は5事業所(6.0%)が計画。
 ●車両・運搬具=3事業所、●販売設備、OA機器=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は「購買力の他地域への流出」と「仕入れ単価の上昇」で、「購買力の他地域への流出は1.3ポイント上昇し、「仕入れ単価の上昇」は6.3ポイント上昇した。3位は、前回同様「需要の停滞」で、0.7ポイント減少した。4位は同率で「人件費以外の経費の増加」と「消費者ニーズの変化」でだった。「人件費以外の経費の増加」は、3.4ポイント減少し、「消費者ニーズの変化」は0.9ポイント減少だった。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 4-6	R6. 7-9	R6. 10-12	今期	来期見込
業況	好 転	5.9	1.0	5.9	13.0	7.5	4.9	3.9
	不 変	56.8	64.7	65.7	62.9	64.5	56.9	64.7
	悪 化	37.3	34.3	28.4	24.1	28.0	38.2	31.4
	D・I	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 22.5	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 27.5
売上(収入)額	増 加	16.7	7.8	24.0	30.3	11.2	8.8	
	不 変	45.1	61.8	52.0	43.1	58.0	50.0	
	減 少	38.2	30.4	24.0	26.6	30.8	41.2	
	D・I	▲ 21.5	▲ 22.6	0.0	3.7	▲ 19.6	▲ 32.4	
資金繰り	好 転	1.0	4.0	5.8	5.6	3.8	2.0	
	不 変	70.0	71.0	75.8	72.9	78.9	70.0	
	悪 化	29.0	25.0	18.4	21.5	17.3	28.0	
	D・I	▲ 28.0	▲ 21.0	▲ 12.6	▲ 15.9	▲ 13.5	▲ 26.0	
仕入単価(材料等)	上 昇	67.3	56.4					
	不 変	29.7	38.6					
	低 下	3.0	5.0					
	D・I	64.3	51.4					
採算(経常利益)	好 転	3.0	3.0					
	不 変	48.5	51.5					
	悪 化	48.5	45.5					
	D・I	▲ 45.5	▲ 42.5					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

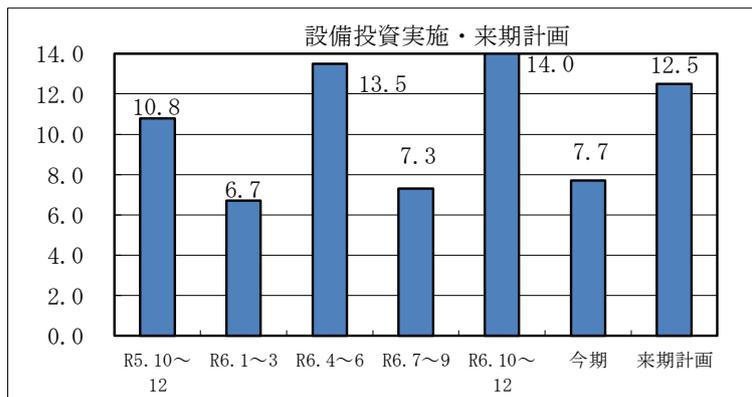
回答104事業所の内、8事業所(7.7%)が実施。

●車両・運搬具=3事業所、●建物、サービス、付帯施設=各2事業所、●OA機器=1事業所

【来期計画内容】

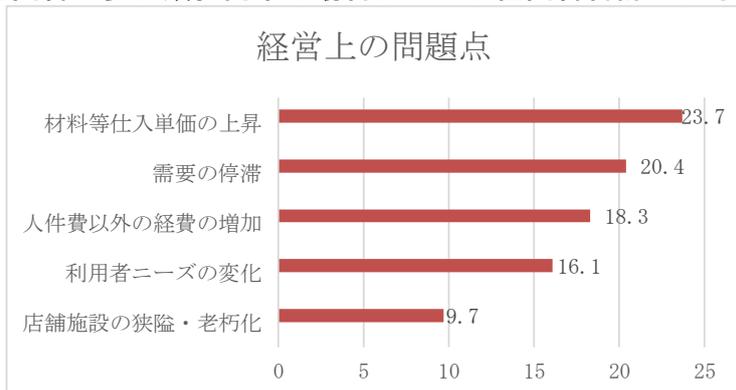
回答104事業所の内、13事業所(12.5%)が計画。

●車両・運搬具=5事業所、●OA機器=3事業所、●建物、その他=各2事業所、●サービス、付帯施設=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「材料等仕入単価の上昇」で0.8ポイント減少した。2位は前回3位だった「需要の停滞」で6.1ポイント増加した。3位は前回4位だった「人件費以外の経費の増加」で5.0ポイント増加した。4位は前回2位だった「利用者ニーズの変化」で0.2ポイント減少した。5位は前回番外だった「店舗施設の狭隘・老朽化」で2.6ポイントの増加している。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

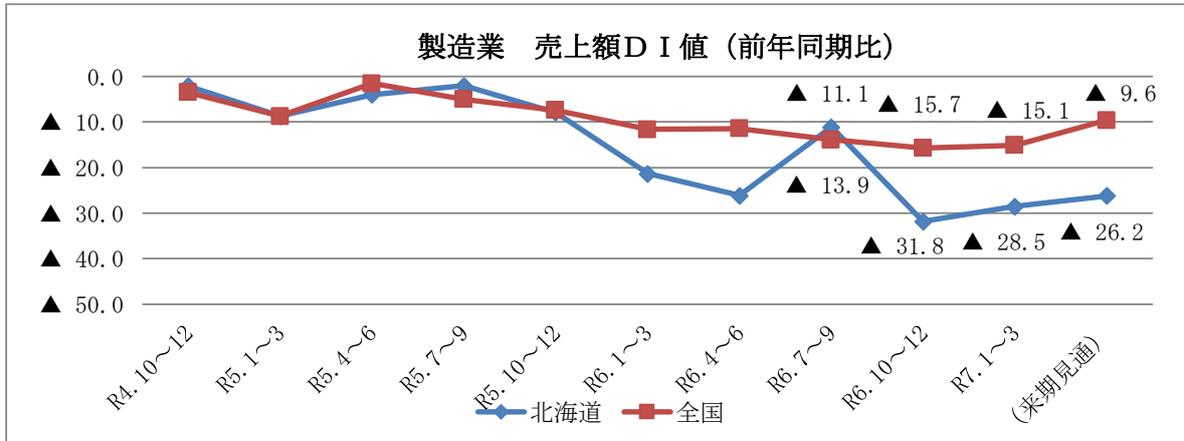
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

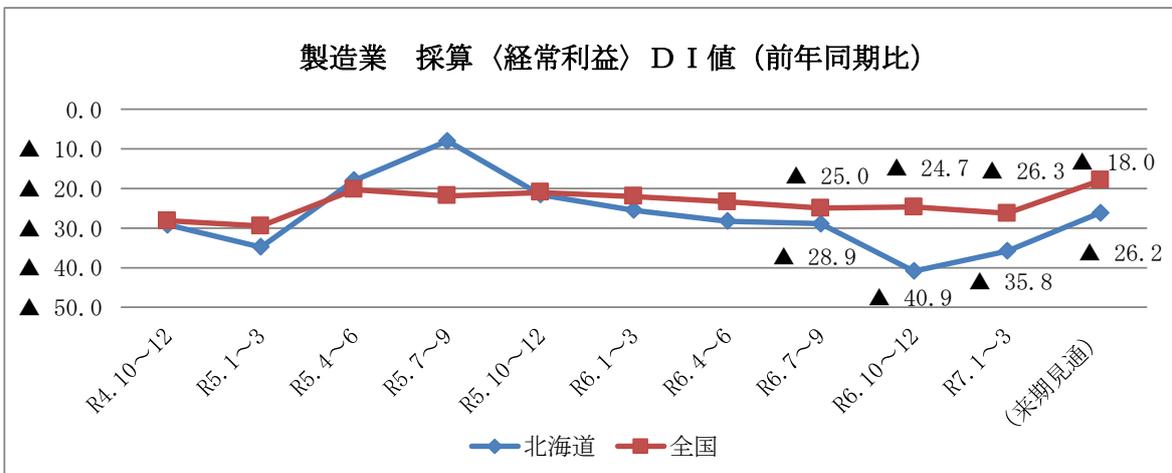
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

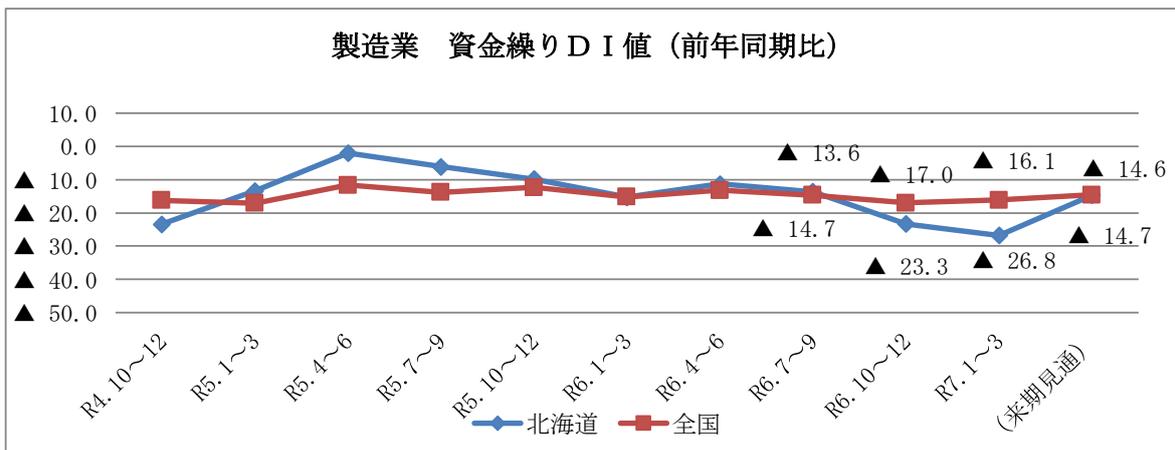
売上額



採算



資金繰り

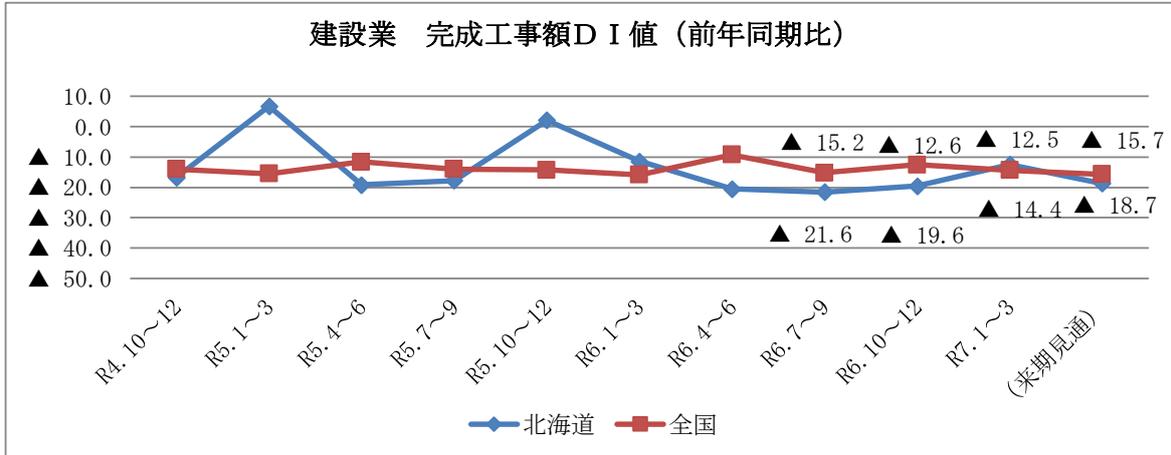


建設業

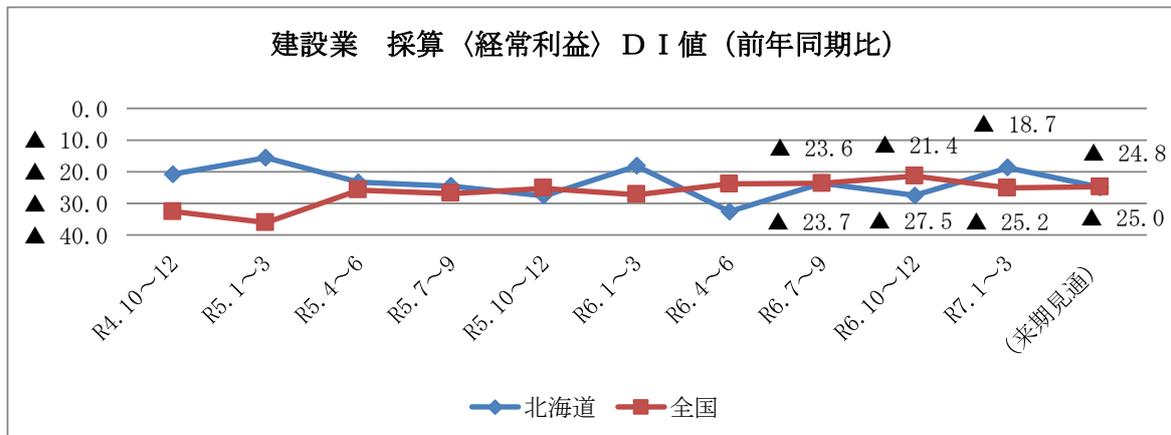
【北海道】(今期)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少
 (見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

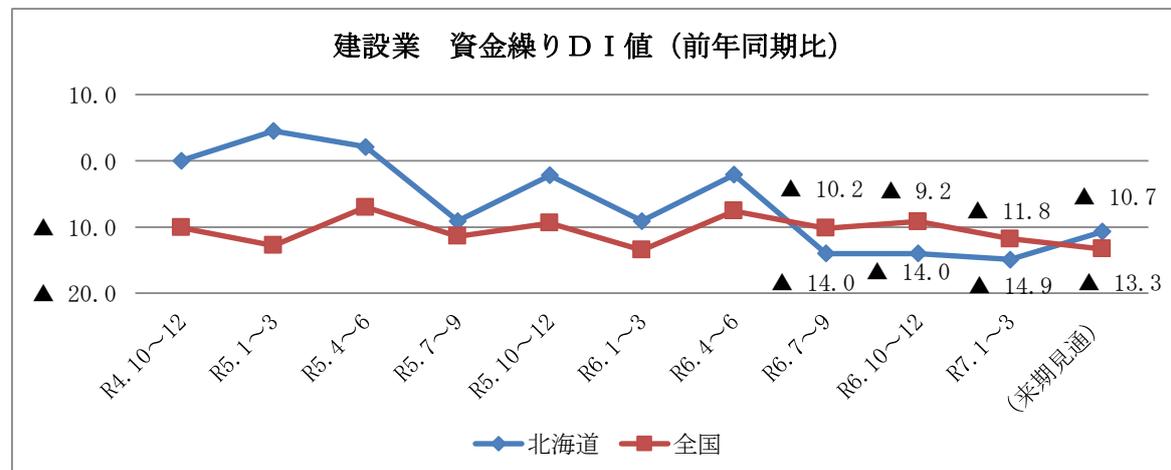
完成工事額



採算



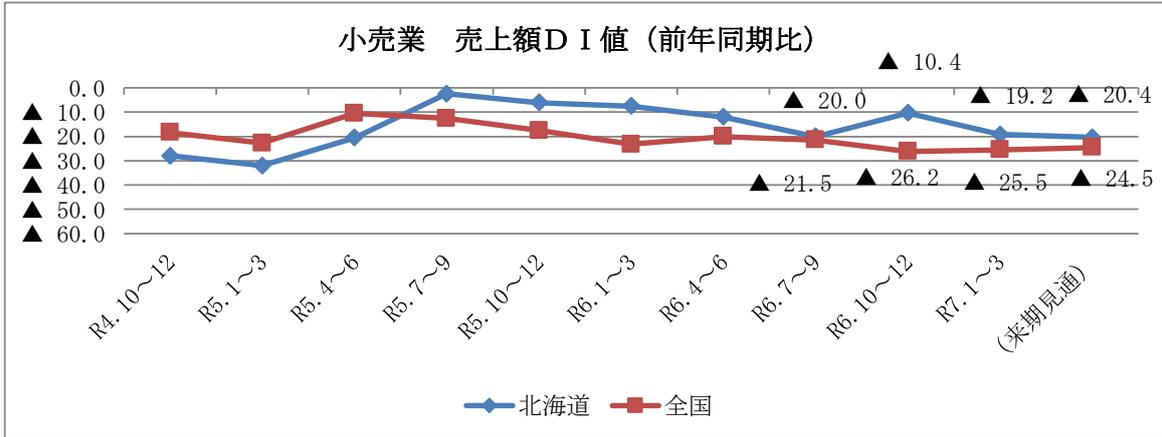
資金繰り



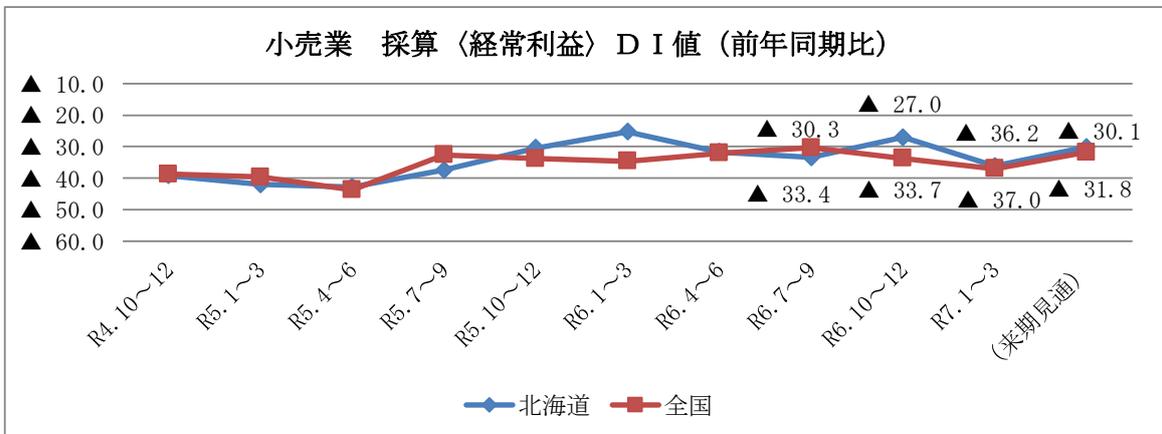
小売業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

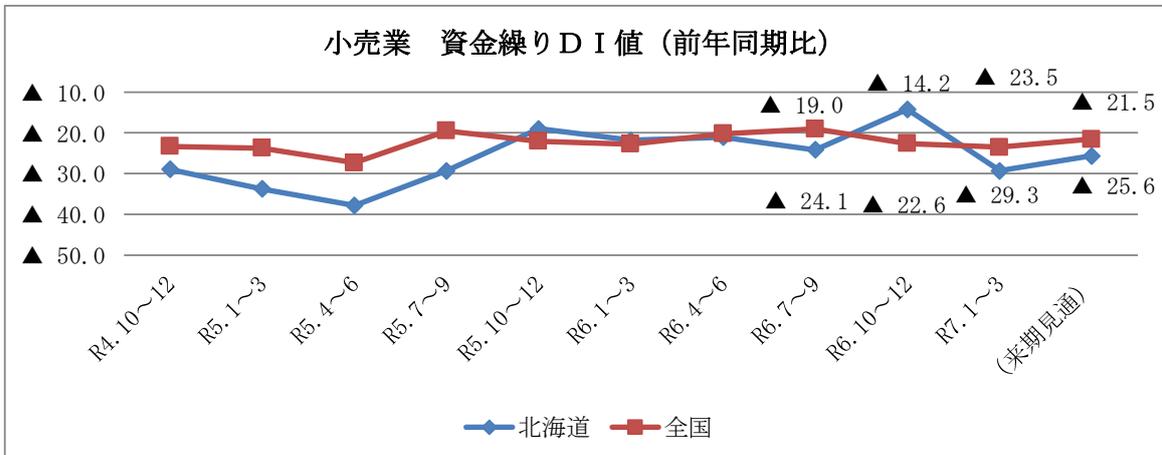
売上額



採算



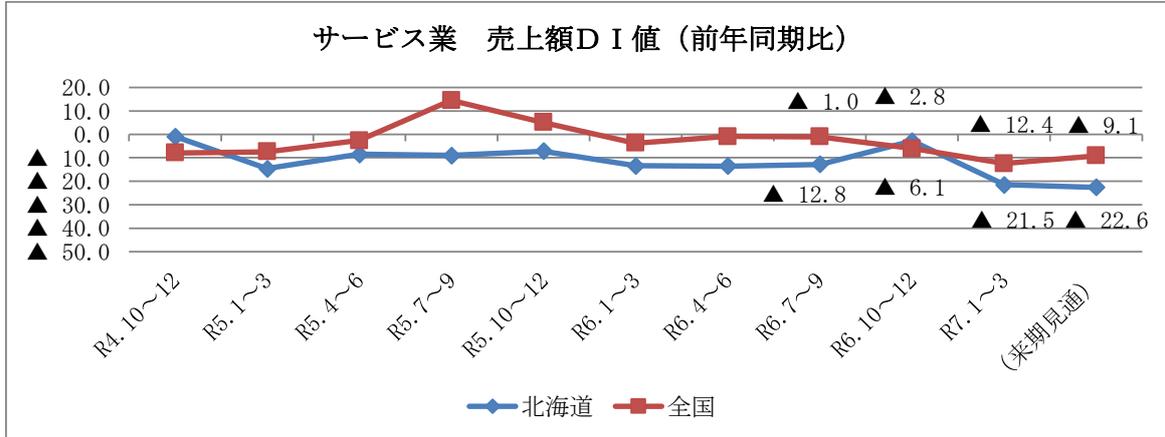
資金繰り



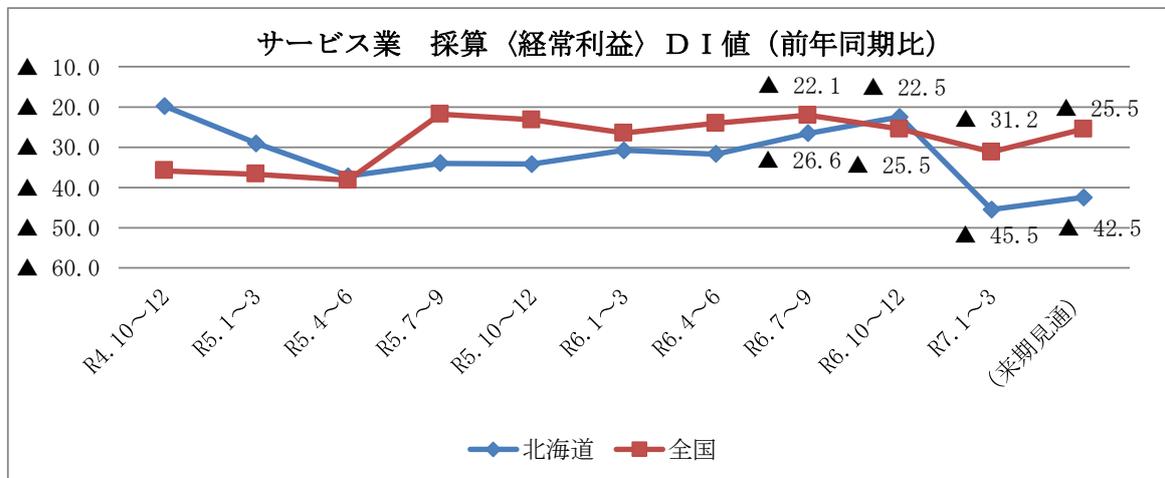
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

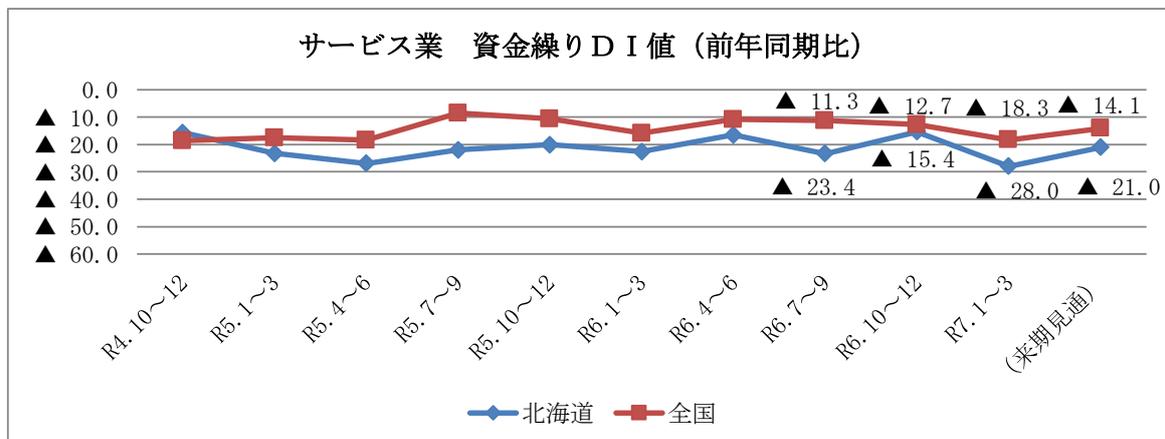
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>○ナメシ料金や取扱商品の単価を徹底的に見直しを掛け改定した。得意先確保がカギとなってくる。大変苦しい状況だが耐えるしかない。</p> <p>○今年の冬期間に限り、日本人の来客が減ったが、その分ニセコ近隣在住の外国人客が増加し売り上げは例年通りであった。</p> <p>○手形の短期化が進み弊社としては今後手形を使わない方向に移行していかないと考えています。</p> <p>○素焼土管の今後の需要がどうなるか、なかなか苦戦している。</p> <p>○経営者の自分ひとりで作業をしているが、高齢により体調も良くないため受けられる仕事量に限界がある。しかし、原材料や飲食料品の高騰等により事業所得はもとより家計も相当逼迫している。</p> <p>○設備の老朽化が激しく、だましだまし使っている状況。更新するにも借入が必要となり、体力的にも厳しいものがあることから、設備更新は考えておらず、廃業を念頭に入れている。</p> <p>○人の流れは例年より弱く悪い。景気が悪い。</p> <p>○度重なる原材料の高騰に加え、光熱費等の負担額が著しく増加しているため、年次契約の見積金額の設定が難しい。設備の老朽化対策が急務。</p> <p>○世界的な経済不安を原因とした経費高と為替の乱高下によって経営要素にアンバランスが生じている。</p> <p>○12月～1月は当社が取り扱う魚種が減少したが、2月に入りタラの水揚げが例年より増加し、処理数量が増えた。4月からの水揚げ魚種が心配だ。</p>
建設業	<p>○民間需要の停滞が当初想定していた水準より回復せず、特に弊社の主力事業である商業用店舗、ホテル改修工事等は未着手の事業案件が増加しております。設備投資は材料の価格上昇に伴い収益の確保が困難な様です。</p> <p>○油等の値上がりが利益を圧迫している。</p> <p>○冬期間に入っているため、未成工事等がひと段落したので売上等は落ち着いている。仕入単価は上昇が止まらず、景気に悪影響を及ぼしている。大型物件が官民間問わずない状況において、厳しい景気情勢は続いている。</p>

<p style="text-align: center;">小 売 業</p>	<p>○インバウンドと近隣工事需要の増加。 ○客数、売上共に前年と比べ少し減少しており、多少景気の悪化も感じるが、ターゲットにしている客層は増えており、店としては良い方向に向かっていると思う。 ○仕入単価の上昇が止まりません。 ○新規取引先を確保したことで売上が上昇傾向になった。大型店への流出に歯止めが利かないが、商品構成をもっと考えると戦えそうだ。 ○米の価格は下がるどころか上がり始め、それに追い打ちをかえるように野菜の価格の上昇が止まらない。消費者の不満の声が以前よりも大きくなっている状況で経費等をこれ以上価格に転嫁することは難しい。 ○業態とマーケットの不適合。 ○24年は厳しい中試行錯誤し販売を伸ばしてきた25年に入り流行病が広がり1月は半月程度停滞し食品石油の物価高騰により消費バランスが偏り業況が安定しなくなったと思います。今日現在現状維持がベストだと考えます。 ○今期は物価高がさがわがれていて買い控えになってますが来期は、お客さんの給料が上昇することを信じて、また買い物に来てくれることを辛抱強く待っています。</p>
<p style="text-align: center;">サ ー ビ ス 業</p>	<p>○物価高がすべてだが、去年は値上げしなかったのですごく大変でした。今から値上げして様子を見ます。なんでも値上げするから困る。米は異常だ。経費削減の為に前をやめた。 ○今のところあまり変わりはないかと思いますが危機感には常に感じながら過ごしております。 ○従業員が10年前と変わらない。続けてくれる事はとてもいいのだが、新しい人材の入れ替わりが無い事に不安がつのる。 ○ニセコエリアの宿泊者数は冬期間（12月～3月）は、インバウンド対象で高価格で販売されているが夏期間は日本人客が対象で供給過剰で小規模施設の販売価格まで下げるので競争が激化している。 ○インバウンド増加の恩恵も少なく国内客需要も減少している。物価高による人件費や諸経費の上昇をどう価格転嫁するかとインバウンド対策が課題。 ○高齢化により新聞購読者の減少があり、さらには近年の物価高騰により生活水準を下げる必要があって購読をやめる方が増えている。それが影響し業績悪化に繋がっている。 ○従事している役員が体調不良により労力を書いているので、今まで同様の業績を維持することは非常に難しい。零細企業における一人の重みを痛感すると共に経営の転換期を迎えていることを再認識している。 ○ランチの客入りが非常に少なくなってきた。仕入単価や全てにおいて価格高騰しており、利益を圧迫している。 ○企業等の宴会利用客が減少していると感じる。個人客の利用は増加傾向であるが、宴会売上との利益の差が大きい。食材仕入額の値上等により、適正な利益を確保するためメニューの値上げ時期、金額について悩んでいる。 ○冬期ということもあるが利用客が減っており、利益が確保できていない。夏期に向けて宣伝等が必要と考えている。 ○1～3月期は繁忙期に向けた仕込み期間であるため、例年は採算が赤字になっていたが、今期は新規販路が複数確保できたため、収支トントンにすることができた。 ○燃料代の高止まりが経営を苦しめている。 ○コロナの時より安定してきているように思われる。電気料の値上がりが大きいと思う。 ○全ての品が高騰していて厳しい中、新規参入者の低料金にての営業。 ○年末の売上は思ったよりあったが、仕入率、人件費も共に増加していた。新規事業の宿も営業開始をし、今後売上を伸ばしていきたい。資金繰りはかなり厳しい状況であるため、原価率の見直し等も必要と考える</p>